

## 県と公立大学法人会津大学による懇談会の概要

日 時：平成19年1月12日（金）午後3時～午後4時

場 所：県庁本庁舎2階応接室

出席者：県 側：佐藤雄平知事、内堀雅雄副知事、室井勝出納長

法人側：角山茂章理事長、赤城恵一理事、黒田研一理事、Nikolay N Mirenkov 理事、  
安江俊二理事、太田光一学生部長

### 1 懇談会開催主旨説明

今年度から会津大学が今までの県立大学から公立大学法人に移行したところであるが、法人化後も引き続き県政と大学運営の連携を確保し、県民の期待に応えうる魅力ある大学づくりを進めるためには、大学の運営主体である法人と、法人の設立団体である県とが、大学運営の重要な事項について意見を交換し協議する場を設けるということが有意義であると判断し開催することとなった。

### 2 資料説明

- ・ 資料に基づき、（公）会津大学 角山理事長及び安江理事から説明を受けた。

### 3 意見交換

（佐藤知事）会津大学というと、産業界の雑誌に、技術系の大学でベスト10に入っていたのを見た。

（角山理事長）就職率がいいので、そういう意味で産業界から、実践的な人材育成をしているとの評価を得ているのだと思う。

（佐藤知事）会津大学では、マイスターのようなものはやっていないのか。

（角山理事長）ミレンコフ理事が説明した「先進的ITスペシャリストを育成するプログラム」へ申請した事業の構想も、実践的なテーマを中心として民間会社ともしっかり連携してスペシャリストを育成しようというものである。

（内堀副知事）主な就職先はどういったところか。

（角山理事長）富士通などだが、修士となると一部上場の会社に就職される学生がぐっと増えるということがあるので、博士課程・修士課程を強化することが大事なポイントだと思っている。

（佐藤知事）大学院生は、何名いるのか。

（黒田理事）定員は博士課程が10名で、修士課程は120名であるが、修士課程への入学者は今60名程度に減っている。学部卒でも就職が容易になっていることが入学者減の原因として挙げられる。

（佐藤知事）開学14年目を迎えて、卒業生から助手等は出ているのか。

（黒田理事）講師に3名いる。

(内堀副知事) 会津大学発のベンチャーについての最新の話はないか。

(角山理事長) つい最近の話だが、学位を取った1期生が戻って来て、会津大学の先生や学生を活用してベンチャー会社を作った方が有利だということで、大学の目の前にセキュリティ関係のベンチャー会社を作ったばかりである。これで、19社だったベンチャー数が20社になったところである。上場を目指しているベンチャーもあり、IT産業が会津の地場産業として根付き始めているので、是非御支援をお願いしたい。

(内堀副知事) 短大の方も幅の広いジャンルを活かして活躍している。

(佐藤知事) 農家の空き家調査について、確か、4、5年前にお願いしていたものに取り組んでいてくれたことに感謝したい。短大の事業は、私の進めている二地域居住につながるものであるので、頑張ってもらいたい。

(安江理事) 地元の方が非常に協力的であるので、連携を取りながら具体化していきたい。

(角山理事長) 短大から出された会津学鳳の中高一貫の話は、四大でもすごく関心がある。教員の安定確保のために、教員の満足できる教育基盤を、会津に整備してほしい。

(佐藤知事) 今日のテーマは、基礎づくりの福島県と大学院の進学率の話ということになるか。

(室井出納長) 現在、教員において外国人の占める割合は何%ぐらいか。

(角山理事長) 40%ぐらいであり、国立大学よりは先行している。

(室井出納長) 開学当初は60%ぐらいおり、それがひとつの売りでもあった。ここも課題ではある。

#### 4 お礼のあいさつ(佐藤知事)

産学官連携が、これからの福島県の発展に重要なテーマのひとつであると思っており、会津大学と連携を取りながら進めていきたいので、いままで同様頑張ってもらいたい。また、私の推進している二地域居住について取り組んでいる短大も、今後とも頑張ってもらいたい。